

## 日本オペレーションズ・リサーチ学会

## 1958 年 度 総 会

日本オペレーションズ・リサーチ学会は下記の通り  
1958年度総会および第3回研究発表会を行います。

4月19日(土) 午後 0.30—2.00 受付  
午後 1.00—2.00 総会  
午後 2.00—5.00 特別講演  
東京大学 工学部 大講堂  
シンポジウム “日本におけるオペレーションズ・リサーチの応用”  
(学士会館(赤門))

4月20日(日) 午 前 9.00—午後 5.00 研究発表会  
第1部会 理論 21番教室  
第2部会 応用 大講堂  
(東京大学 工学部)  
記念撮影および懇親会  
午後 5.00—午後 7.00  
(東京大学 山上会議所)

4月21日(月) 見学会

有隣電気  
日本電気・玉川研究所  
通信研究所  
小野田セメント  
IBM

〔備考〕

- (1) 研究発表は1題目、討論を含めて30分とします  
講演申込は32年3月10日までに、学会“年会準備委員長”宛お送り下さい。  
申込者には3月20日までにプログラムとアブストラクト原稿用紙を学会からお送り致します。  
アブストラクトは和文と英文各一篇とし締切りは3月31日とします。

アブストラクトはプリントして参会者に学会当日配布します。

年会のプログラムは学会誌第3号に掲載します。

- (2) シンポジウムは日本におけるORの応用を中心話題として各方面で活躍しておられるORワーカーの実施例の発表および情報交換を行います。多数の御参加を期待いたします。

学会新旧理事のほか、本座談会に参加御希望の方は400字程度に要約した話題を前以て“学会年会準備委員長”宛に4月10日迄に御送り下さい。(会費 500 円)

- (3) 見学会は今のところ、有隣電気、IBM、日本電気・玉川研究所、通信研究所、小野田セメント等を予定しております。会員は上記のうち任意の2カ所を見学することが出来ます。ただし参加者は各所とも30人に限定します。

見学会の申込締切りは4月10日と致します。(定員に余裕のある限り追加申込みを受けれます)

なお、会員の方で特に東京都内または近傍の企業等の見学の御希望があれば学会で斡旋致しますから3月31日迄に御申出下さい。

締切り期日をまとめます。

- 3月10日 講演申込  
3月31日 講演アブストラクト見学希望箇所申出  
4月10日 シンポジウム出席申込み、見学会申込み以上

日本オペレーションズ・リサーチ学会  
1958 年度年会準備委員長

近 藤 次 郎

## 学 術 会 議 第 5 部 に 登 録

日本オペレーションズ・リサーチ学会は32年12月学術会議第5部会に登録されましたので  
会員諸氏に御報告申し上げます。

庶 務 理 事

# 日本オペレーションズ・リサーチ学会

## 第2回研究発表会

日本オペレーションズ・リサーチ学会第2回研究発表会は、昭和32年11月2日、3日の両日、大阪大学経済学部において行われた。当日発表された論文および特別講演の題目はつぎの通りであった。

1. 近藤次郎(東大工)：消耗率の推定
2. 清家正, 小田中敏男(東京都立短大)：ある商略の問題について
3. 岡本彬, 平野管保(有隣電機)：FACOM-128によるLPの計算例
4. 山田隆一(小西六)：修理サービスにおける待合せの問題
5. 渡辺浩(東京工大)：Net-workにおける輸送問題
6. 小林功武(吉沢会計機)：UNIVAC-60, 120電子計算機によるLPの解法
7. 米口 肇(吉沢会計機)：モンテカルロ法による行列の取扱い
8. 国沢清典, 森村英典(東京工大)：集中局間の呼量の実態について
9. 松村雅夫(総理府統計局)：ある Sequencing Problem について
10. 前田活郎(鉄道技研)：木取り計画のLP
11. 坂口 実(電気通信大)：Cooperative Gameについて
12. 佐々木綱(熊本大)：信号交差点において受ける交通流の損失について
13. 西野保行(東京都交通局)：線路容量に関する一つの考え方
14. 浅野長一郎(塩野義製薬)：知名率解析について
15. 宮武 修(大阪市大)：変形せる一様帯電体のクーロン・エネルギーの計算
16. 小柳賢一(日科技連)：国際OR学会に出席して
17. 原野秀永, 松岡由理子(東芝)：最適発注量について(第II報)
18. 春日井博, 加瀬谷忠美(早大工)：在庫量問題を例とした不確定モデルに関する考察
19. 深尾毅, 甲賀将之(電気試験所)：ORによる水力発電所運用の解析
20. 藤沢俊男(近畿大)：LPにおけるすべての最適解の決定について

### 特別講演

- 古瀬大六(小樽商大)：LP解法の最近の動向  
 宮沢光一(東大経)：行動決定の規準に関連して  
 目崎憲司(下関短大)：ORの体系—ORの適用性とその限界  
 城 憲三(大阪大工)：電子計算機のプログラミングについて

* 日 時	<b>日本オペレーションズ・リサーチ学会</b>		* 番 号
<b>講 演 申 込 書</b>			
氏名(会員番号)	所		
	属		
題 目			希望時間 分
			* 決定時間 分